五代記

G 29

しさつま とはらい



8 34229

000782897

かは大人記巻をしているというと ないる。家子门関へかの清らかろの果たち、文文 之小老者以降改立之国八川と韓後という。夏 あきかだいかけなくものとなっちていぬって 連はてかりや。天三十八風の年七月六月。改五公と しい氏車の気祖とめるこれるなかもれていま はまべまでものでというしとないいます。天 ろうでしく。國の政道をかなっかの民きらって ろはうくかけるようえんとはけてるけっとと 物が減少されてうず

なもし、伊豆の風と切くれてしまりくらつろう ないなとくれとういうは見とないのさくい意味 少了。伊皇の國中八三郡山國也東面一日も少人の國院各寺の場上をする人人では人の物語 粉人或死士指了了了日早宝八合门我と、南中小 うううと甲宮のりときなってころいは 成我也不情的更多的人道一小晚早老老之 けっむ土活ていての早宝病あしからでのほう 切てえり物はなり、そいきろうとうでしているう 一下するとうは水浦してあけくはぬしいはらと りとれ中しんろしいたのれて数したしては不 色後できる国ち了在城也、それ任室国了依然のはのけっちょうとうりあるあるである。を後年宝 といるとの中宝年初も後河風不見受力 いなり、数ではあり、世屋ろく、伊屋の風みでれるれた伊屋の風い年本でをかかるではりませる かり成就とろとなく多り、文成を

すりの行後のある中へおの風となり、風寒水 秋後に伝いた面はたとかいてようししてろうと 場してもひくれなすのかしるが級敵も可移 かって大好十渡りとしるるるでの男士か はあの名を地風か同とけってるのゆうとはできる 年まるできるんなとあればしどは水浦 てとからうしけってる中を日をあするぬ とうでは一つるでしていつ」とうとせずらしから とのではるところとのなるながりとうできて いていたかし人性雄と変せがくることよう てかしていくさん合教の防夏大學小神かり 事とうかのとはめの歌心からいきれると 智力とうとと一方し我いと没しっかまる時 くる男士と二百くりく直んゆうていこ古人山か かくこうつのとしわりじるくうちとと回し は我的のくずとはいる事まとえていますか 好るるとては伊皇の風とするとくってるころ 計算をひつうれると心成就はて早まち

一大き家の街道具かるとかのかっただがあり 一一次了多多物村少人七年 男士のからていているをは、男の三つの他とうでれ れる世りおんしてき大気力のかはなれるしま ちのなるなるがというするとてでき たととうの中国と常しなとであるとのとの 神る大部十渡了之下人又多姓之て水利 とうちんしまりかんとうとくとうて教と あるなはなとうけっとなるへてえこうなのるれ からけんするなるへいかられるととというできる 松場のあるるいのとの降しるとしているれたといいかられているというといかられるがりまったりといかかのしまり、日中しはきの風 からうとかんのかっていていていているとうとうは くざいれなとてかとする。秋とよく山れるを

一個是國中の侍并出民了多色を住下となっ 方像、安修のサークや一角透れのなるものれる なの次子があるし大人へとあるのんとうろいろう けのからしきちのことまるとういうしょうかん ちか後一条助かるでは重要の川の世ようながないででできますりての人と死世での日三日の中上。 からくせけられたし。はころのあるりだがれてとす 村里のわらかとうとうようなるまる人之気 からないというとうまとれるしる百人のく 者也ときなりまるいかまかかしてるであるい 打動で素新一年とりいる物の食事と多多 からめればはははれるりえくみ日ではつるは いる」かりとうろこびは者たいそれ出版して 做のまとれるなわりっとれかるとするころの教と そう。教とべき者とい数ととろってに改のろとせ たれかえりかんがあくみかれていないとう者と というすくとごまりすくうういいない死の歌海斌 病者つてわずるう十人れる越ストーのそうか そろうなるときとというの早まやてか

てるいれる後をめやいるようせかよびくてくろ たかいるうくるとと唇のは伸りく我くか 全のゆううそろれれり上ろしくべいち山きととて いまときろうといき鬼神のかりなんでん とかと早雲病者のこと日神るとうとこれ 教をうゆうるいろう。もとやろうてる又里 常と明るいいまやいろういとかく。秋の金さの と本のうかいといいまとととなの所をからく 十里で方の者でというとなく。もいとんじて 我場しりは生不と打き。 一ろの山と致日中 えるというか。車神のやりかにせんと。 うするて、報告みてるしておする中を はくかるさくとは方みとありとわりつる 守るなくいふ者わかっきいいみ人は不のゆうとる 東方二十里山の村外你也とる下了。國产情人 里をきいき味うしてはあいるり。参加了 さもでうかかられいわさびしくないからる。 ち城とれるいる時でける一百でとか一次のたれ ゆていねかようさいつかる国人数向しとく

きときるともとでからかるの早まとを しせなく。残かり付めれる味方の好三千季」は根でせるうちねくまりとのきついた おうからい城からまあいなまれるまかか 後な珍万ちゃくうての物をじさしてくときな か十年うけとされきかもととやノーンの風 とくわくかの生まとて家子引かりこうの しめ一方いなとけりの好さりとまと引せいり夫 中の衛行は成してとれることをするでは 人ううさけっちあてかとうの即吸るるやと くべはいまでも、一人的さを着と切成めぐり たとうとまりぬしるる者でしてなり あくけられである者たり車ーようとと かするしとはといるとうかのそう いさめいるとせんとうろういもわりて切てよい くしてとかいろうかりとに者という くとから張かり伊皇一國の早宝の風と 多ととたる方人とうとうかしてあれい かるとれもりせずるのうの場といれる から事。成的世」らしるうろれたに教とう

思をおううとういとめと、明祖と松 むしべきでくれらるも数也飲とほうかし ろかり、松人教者しるとりますくらいけて 人とめとば人のんとからめるろともにの まいくがはますくてくりさかせてればる 風とはらしく歌のかを一世人の制調ししったと りとうむとくべたはくことるとうか早まこの 下早電后做一路(四分人小牌あとり下早 かりきている例かりこくい田山とみ見る の星れというくとうれーなのか的なとう 本ののいかいいいは経かいるへかかされは一年 というかりと教とすいるかは おるでくらうとはなねるの歌とうりと んとと歌風、まれりのでし病者。千金 利なるといるといなりておける。我なども ふわしととろう。今日早を望り伊豆の りいれるされ一人からしとう人としたう とうなるというとう はり 日十七日神皇の風の目代のれる 下の者りなれる早までてお方とまたが 狼

きんいるとうからるのとのそれでき 家といんなられて三時大明神かまること やうくまないからぬのつけったとるのねる 五人大上权为的相模的意义是是是是一些。 退的多一人中人们早去教徒後人色出 上を相換る風かり一面とめこかの上れるか 的具象かり。国東奥州人での國司五上松及 大松二かるろうと。南一つよう覧わしてこれて 上登越後がないの見かってもかとくると かからうなでは上れる道のまりや。扇谷代かかかう そうず。明應のひかいせばぬしてもれ複す 事かり、早まばゆとったを国と記しとうな からであ上れるの中から成るら失れやし は多多多人家を見る方の中了。評論学生 モー。早夏から十六年七月十一日三浦多道す 園切て気を後多らい病死民中全民之も減 そうしい。若根色物山と致小田外の做とろい ちのる事をとおよれいろいでするちんとなり 之上去尾在船门村子息四即后船门村得数

りきる神祭目万成といういる は一の国へかとなめなっています 看做三浦の新井の成とせるあし 年。氏をは代しるくかろいねと 教育の思切性金」をといる 豆相き、他でケ風のへわかく、上か やの二字とるしてきりゆ 合教もつ美流かりとくため そとしかりの名称をしてくい から極強の大いろうを民奉い 内十年の大合教」。大康·57 文子が行るか。民活な風でると いる年満らかなってかける できまくし切のうでいといる 絶成代しかろの中不養的多上枚四 又代释後1風とはららいり 首き。佛神しもくろかり ○強何海でお軍の事 らろか なな

るでである。根本はあるるととれるかららいの後し、我心をいくくとをなるはないのははりの二里かられる。同の下ふるかれるとはないのは皇重次のれる。同の下ふるかれるととなった。それのの中皇重次のれる。同の下ふるかれる。 強可ではつける地の美山とかんのまできるとい を十酸化りるいなるとかいけとおけるとか 小三次左北门村。山中任送ちまりる松大的以里 人きてく住しるるるかなとんばせいあれの車場 次南小居住と、民主伊豆の風しとうく。軍事 一時状態であるとといれば角は私のは 在城とい城のはようしてくるるようのはい と後河水民立ち也を門像了八大石玻波手 去人保产者。高門像。けでケ城八稜町の風中と 後川の内言國寺とこねちの防我の城也。泉八の と一き首心像氏車と、武田勝利我のの内記 あり、赤げくるをはするあらないかのはまさいといういければれるないというのはいからのはいいるからのはいいできるる で対しるの人民連及風とから、最九信玄时 とくべた之年今月教元四代品降民怨切 はは彼何なとれせきんできんであんとかしとい

かとのおればいらにはかるるはかいはほとかのれ 後何了出陣と民主と伊豆の國人出馬しる」という大鉄地とは付というとうなる天正八年の美傷教 さありまうとれていているかりまする他できる 本子へきてして、東京からなりはいるいます な後しいくのすねとしているのたな地をとい とからくるは地やく十みられるねときこのりき してきなしりいる。重次の共私後可海へ物と お情ニナスー。あう合み十一五の失私也多しい かりけるくことたいれの人はしまからと、日まられの別意を独立とうううと歌歌をはれのみると あとはずり十艘の五町とけるの情がをきる そうち物でもゆうんとそりねる歌の诸郡後す かしていからくともとくとはむしない 伸れぬく十渡のようかというとったとれれどく からるるととうせのけんりかくをぬの上海さいと と伊皇へはぬととはより ちれかかりて三月 てるかとぬとと中しるとは地と的石枝のかとこ

こととといれかくてやるれなどのつきかって魔は からからしているとうないくの飲むは水ははてい 勝れかかっていまくさとれとあったるとって ける多とろうというう。勝般を確のふれる ゆせる時代の様かははかれのかははくるま は方の中二個で演名の前はようくいろのあつ 竹便りゆうないなりもちなきが十艘の小学員 けっと飲むをえまり、行うれとをめとうでと 馬がり、甲書かくなるとは協をある焼物 であるとうとうととうからしているかかれるようだろう なくの状地とくれつといかなりてなりられていみ 水の中のほうけいへてらみ地とてるつけったの まとうるないとはの子はこだからくないとう はぬかると、博りずる人にはりりり子二般か ないりありにははくしているのである事場とかと飲いたろうべい ナみ月のやいすいめでかかかかれ三渡重次の後を かと。被馬とうしたくその治野後へ打かる 一合人被上版人家多了好で連行と十艘の

食物を得るまあるをもとうと大きの産者があるとうという あくい何の最りと相撲でうりてとばしるこう かんとうきんとはれてものというからかっているから 白いようなとく。诸軍といそきれかりとを かれる気をろうともありとままりすいい きあと引かせのするとというとはくころ りよるの事をないらなり かいれしてたねり るとうときや車の勝貫の内の運まるます 七年でのいるとなのあるころかりていのでできる 南はおで留主の多版と打からくる。臭記十 の独やしましてれ用るよさろいのものとな うるはりは軍子からういまるのは地のま るは治と成むまとうるとくなっとれてるいし するるをとりまれしいちきいははかる田子の南 長の東国行即さり。海道场次の記し田子の いまする。他雅のちょうとかれるいあく時の るくなとうとかりとうとないというとう きかていとかる名で過去のあるういるかいとう かんないさんちくかて心唇とれる大わまれ

おるとううと神仙の極くるやわるとんごとい かんがあのようなることの山にしまるようかろ めぞとなれてるなり るかのおれてるでわりるはのはますしておくる のでくうるなうないではあとなけらかと なうったというから、声がいみでくていないというないというないというかというかとういうというないとうない そうとそんろとようりはいるかかりくしまし はあるとはせりるいくはみなけいさて されなりといくれるのあかるをかるかりのかってきくんできれていまのはくようのはってりのないとしろ むせんはみ着い油のエコラうべてを変まのこの時 とどれてみもいいるまの様とで東西へくろくと の見られまとどうくかでかろう。かりとう かっきこれのをよけっかれるとのでいったくうるく るよのれつだようといっちをいっていとか ないことにのかにしる古の秋のなしまとれていしくえも なのなっちょうくうととうて、南風なの村子 うての科をうるれいしきまする。あい海のいる

外聖国りるてるろうさてかてかりの城东西かられる すれますとりとなるくうのされた城中郭 去小田京」を旅し、歌いつります。成とさん ろく。天至十八年の多面國物と引奉し。東國人人一之者。武國自然古乙國東小峰民也返近 かりというとてるからのはさいかりのけるか そで自然の天」りかったらくか大われ からてはいといり土井る値の上して、ろうそ をみ十町る少七十町のどりみ里の大城也が 教向一路の民車は做りなそれの国八州の軍 金とされたいでの角とみは歌きとき 秋のなのかりの襲拳の寺。まの中の中の西里 すれけらいてまのまのうちなれ」とならる ないたいではいればいれのためのさいりとていかから つめと他をあるはもももくつきで、眺をら えてきないとのなのとるまでかどう の小田を飲みのましている くみもといれます とかをなくろうとめまくる

ういきすんりことうおあったっとうとう 方へかているのうとうなと国也の民立ることとう からいったがいれるようなを国のかり、 は墨のろの横三十月後ろうる大大大 れに来してする人のかり人後下ろうでも かん事。指麻竹蔵のかー。れかけてるっそと せむしとはあかりでかかとうりとおき 百人甲唐と常し可致抱後とくうちょう行 よるではしいろがとうとかいる時を回の 家のとくとかいう。馬きつきれるではく そんれれからてくる城中教机とうし 軍はる歌を中しるくめるのおっとせいと あくるとつゆか城の大はでかり、集ていかか 焼から自日しかくかくと湯は十文とれ を経めのおけいてせくりましていきのわり りかりるなを見るして誰から うの甲書ときくしとし、役下の者たのらみ うっても他のおんりの人もか好しくうとるい 地とよれてしかりして歌るる

そかつべしていの者はい地域にあかいれる 神のまのとる西町十町からかり市らていて ないないとしかったとうったとうくて明ないね て電学をか来以うと打てもうからい 書いわらのほんけったがはした状地とうけとき おうらくろくのかくさんはくしときこう としかりてきるのもろうしいねみおな大明 利森了具子海市一方路也一生涯と送る とういるろうからでしから、色粉と種るし 多しるはとかくさしもわったかいとうとう してまかく何る付くしかがくいちん をあるとのなりないとうとうとうとない なの棚とするのとうねる質板着きくる百 教があるののではいろうでは中でも のなるる者を教を市へかりてうりし ゆうたいろんしてきてきてくこれとる ふくきべい。東京上上了、民石姓、ま きれときれいれが民国年中外のれま 女人でしているのちのちれる」とっていかし の賣物でなの気物をる解集と。民主公

てあべきていてかし、少し水どのなないな 書やすれもかくますでしてくてでとめる! と上別是八殿田下紀寺氏去居城追い小田至了 大道寺後何与然为的紫色大多。长尾衣平了一个人一个人的女人目上表家了。上外和井田城的 する物でからくるるないかり成りるる人 軍気でけるとうくうろうく六月十四日城とわと次 今人家ででいる中田中野る井長石串门村の大大の風を城長後将電一為校地子三即公及到的 格人にぬく必成と、成別八を寺公は除法具ち次、雪田美田のから二万余珍あくせりたりち 城南他中心了多次的人的一个大大的 改房居城家先太田城中守伊里与长来村交 城自北降左来门太正公路人と如く如月北日 わして攻為と同国対形の城公院奏局き あると、出仕とかと、古が岩村の去田十十十 の者を歌車のなるとろうる相がする 一時間奥川の士奉他くている天万余珍して の形なくとうる、後屋はことならして小国う

小神中ゆる色東西あれてよるとうとろれる中のようなだちだって、またりであるといれる十個人教をしてるれているとうところれてはなっているというないというないというないというないというないというないというない さも雲風からとか風東清成大於病城をラ さてうるとい田をむかりくするの人物のなどろ 上言牌の外抄家場の泊布とうかもから武文から、東軍市とかしる成人世棚とうまる 京はかまてるな魔太からを形がりし、書院ねる うんなはきのかいらのとるとのうかのも ているねるあるる意ととりとうなくとう してや。豆川かりの概しいははみだち氏れた 教を有子やといくからのは更というとうる 重町人いかるとうは満風のはくゆくのるもう に強少人な意のあとくれから大角豆を地 うりるるなくこれるく。車中あり きいかとうけどさみかさもつったかゆわろ よくし意質しとくいかまかり。美田舎の遊か るときをしなり草気と地でして大神をあり ありつるう

そうというとあるととなってはあるます き事かしとうなど飲はし版中とかの からいかろがねる面とを飲とではつしととう きんなるなるかい。ありからどろ 我年のはこれよくひさてを上るはいまると だんとうこれのちゃんつかとうう そくではないるではというかとんどれまる おしの成直で属しるくる教とうりのあるる 多さ事とっておんでくるたべまつの大概をいってはってけているとの大人ないとうというできるとうないとう からな風面の軍場今~るといって十里の軍 するかかま。武道のけるかしてれたねい はくるまとけっさいる成立し向であるか 凡次なくたいましといまいれの根はこうな る。天命とよりろりせとらくり、多しむさる

いて文かとかららかのと連しまっている ないとするくだれやあるる氏のけて見 佛神の真色かられるれ天命はちょうとう 机の方了。如今人具一品版と一次一等人 かのでとこの事はとうちののかりでくる らで歌を画あるからやうなはとくるある をんぐの美味ないますない。軍庫からくい流園支でないのころとするい。軍庫からくい流園支で る教士の人に前のなるれてどときのあると いくことはじ歌り一枚万丁思さくからか 不会の対版と具し、歌味ののかざろうとう をおかまのわれかうがしっくのかとれのりだし 天下とかくてた。大かれていい世へしかじいない 日月からいうとりととというなかとかと あるるくか、か人の受人な一からくのせり かと大人の様ときくしていさめどれ人いれと それていてもたるの質人からなまかくいさい 月午風かきまっちめい歌の中やし事は失街

飲のる思いすべくのやしかられいるくがな 後代なんとなりとうるころな天のはられの いりのとれまっとります中の人和せられば がたかんのれんのれるうととう。れれることとう。 十郎民房多好加井郷田にり久むすでる八 せめるのはまたをしまる田民アか浦。野火変が せいされるとける法が百余か日の長神 臣ったしるせであるるののあまった上る 代は除家しいらりると感じぬときうかは ではる事也。富城了就多人人们の民士八人 皇州死山の城上公峰多濃寺民就等的公 ふるとけらわられ事くとしていったちる きかとはしかりのでて城中聖国よるて教 人でする。なってとされるむようわれたのし 十ろのわらい面せからかいり紫りを守むいれ りくうときぬの大ねぞくうですてあって ちまいわらせといいまかしところれでいる 細田ローりれあてあっていとではてしるってる としてると、他の利をしろしこのとして

ふけて民親が山と出はしかのは中してる 紀。那山の成とはてとさらざい田みよってれ か田をなるの上は益うしんなれないといめ れるでするとはいい田かんやのはしていいいというというのははあかかりれたりしい はき、生物雅子ないではある。伊美りはとえ 小国名私陸の同族と、任豆的模式意言文國 そうてかけっいませいかりとうまうというです の清澈をすべくを海ばとかれかれ山一城。 れのううのはくさる。家庭なるうりままし 方具は複葉下經母。做中央大多田十十日後 青了了。解放後地夫子でのもら、天地震 ふとうしせで目までみか月童をすれるす う。松台を好み万余珍三月女九日十の刻 動したやいます。橋ちょうといれとは。よ とうろうしまるとと民就自力強とか 姓きとういいしての歌とればくかろばと あるうろう。都山へ便者としてる。風八か 代うしたらし、あるる対面かり、家園を いりせられながらいの大変れい年の氏型的

送廊とつうのとうんな尾川後田信と軍长十九日沿車 教種るとうりなりまするだけ 少一を首派於八江国四诸風記多号夫 のだ文では気の民就七月六日外の別版知口よ えりついはるないとはいうべきちまる いてう相きるべくといも上をかいるだくと 京部からては数とつてるる千百万 るくくのくきいっかりど。なる三的機は気 かきってんくましくりやかりんう 大くなどのまりまくれくもれと海とべ 六月外到少城也了月月同刻あわかる後途 かとっていっているとくのなりのなればいるいできる や一流をすとうんずる事。きょてろすり といるるの民立いは変ときしとったわの様子 不然なぞで軍防兵署での連上等して記 かんできんが故意版中あくたいのは ふかくうれ十かわら井畑田りる民里七月 よう事なれの変からとことのくし天の 〇年の感者やいまかかず

せのゆうているとうるであれることではりかり でするとかれるなる信長とあるされたというようななくまくいとかりますとかれるなるはなるとなるというと、関西を 院理見勝家と会教一。楊家とはろか一系礼 みと対く。義然とからる理学統立ちまったっ で世界人。月月十三日、元素と強時し。又芝田 み見たままと述ける強威とうの。法國と と引奏し同十一年林八妻ようころに没名 有三日。家的して、直居信長な信息で久 かけると後げから、歌户のそめい井くひく なり物となるでれし行れいまたのるの かいうとでる明智日色寺艺秀元十年 を上しぬなしてわくれかり。家しわきは からめとを何からいの格というけどれてぬ そくしてみのとりりとやかけろととう をとと人のえているがめなど打かららくんが のくろしたなはばから、よろのたけらうかと えの東のからあしくそんなくはやうから をはさいられていれていれている。う とうかっているのうちあれる人をあるん 5 die 27 suls 11

きくかがりやゆいしか日か風の気は者い田 というとうなる歌鶴年曲个の事と くとんうようならのをとうできせいが きくる。かしないてはあるべきなくせる法 急低かとったいのはいい。過食的軍家小時 からうちかんとうちがかれるようなある ういれいろくる士の根のようちとさえんり りつというとかかっこのまもうりつく。 タかりついいもるれるなりしのきべたのまる らいうちからを上世ようしょうしょうか 不のまるとうなりるとあるもとは タを らくうない相換の回してうならかく の白版をかりらんれ目を二路の明神ちる と山といっていますのことありのこいくかけ 食の名的相別小田平」なる了が感然から てくらいいなっとは小は家の国八州の音流な

るよりの日かれてとくろうできくっきょう 名次中越人也帝群臣とある大章と傷をしている事的な漢書かる方大ので は世と返る。佐な八大朝山高い小動をが火 人のひろとなく也磨りたくのでんのう個 きくこくをなるでのととう。勝からとの もりぬめりの他はしてしまくは者という むしてとうしれる満つう馬のかみまであ るおりのなりをきけんといい田をあってうかと を小は家のをとうしてくといずるなととなるというないはないとうとくといずるとなるととなっていまするとはないでしていまする。 上意味からいまちろうちゃれですの 即新八郎之世并给公文是思明之即投之矣。 多濃息品気情小方私门。今ま指助大戲等 门大朝公三谷大意仁助。威逐三即四即以前公 さらていてなの後者るなくるなけるはものとう からのなりとう。まいいやうい海し勝んのみ ふとうと感でといじましる感じしからよの

ろううなないかとなべし、満大名りは後のからてはなとりり、ると大下しいろうでは 力をとけるごうるいいかの人のかれとでくだれん ういとなりできかいいの里」をはっておと き物しつついちるくは雅神様とうろくの成 りつからかりょうとしている国のはららい と待文」とうれるうる人漢書しるまかして とはこれなりられいちつつゆる事とは神気を あ年国東へいてい日が国の人のわけずりにア 力神事をとますりいかの住民わられるとう ちつゆうごうの物とさてある行がかくしと かのまともしったいたりくる保生を剛を 家とかけてうろとらいるというといれている方 やにかと押くして神田のれの参三年かっな るべきいきかくるのとけからかめ それ天下かるとうるよろの意着法國了 あくかくれかさんな大りをみの感者あり ねるとへ世上ゆうか。民きつのとうままま 7. えこく

すりき者。数後の上秋な不堪虎へ道通信と相 はとなったとうとないとうといとのきてうか でありるのしてる。後様集」 模小降平氏康と教いぬる和睦のぬかしらかる 人やたろうといくよみしもなつの神とさてゆうと 越山。家む母人。多山左年门村的中民的と指 ある十七岁かして記福士三年の意故後へ かりかけますのままったはのまといとでして 多色。玄惠は中心東北京面似の役詞とくりりで 万物は長いいっちっとかとせりありまとや いっかなのんぬべりない東国自むなみ何より をせられまるかんかのしもとよって三 きょうて民康の七男三郎あとまたるして 種尾いっからむりてくりや。皮扇と一味の心でし スまぬをはけまれよろとうで、一天地用院 のできてかいるとの電子は朝夕の極着くる百姓 しかいのあるをありましかりて、天台山の の上松三即景院城元の事 り言きり古今たる風東い万民将記の風とかいら というとうからのまっつきると

そうでは一日とぬさと、京陽日十三日人数引作 寺へはとろくるりと人れとうしき! 1865 きなばてりとっていとうら三の曲をいりのか ふっていまり山るないるとうとやるとうと かとくうと村行我地としたしからかられた ある。京鹿一味もっきりて満年といるえ ちつかはきぬとなってきつかをはれれれ 数の做了気ころのは成形後子の数との国と 題元年十月三日」越去種虎八天云六年三名上。家智と継去自山上表後いなど上民原八元 味を三即為の書とかとれ三即事席と改 月十三日代死也通信居下八支日山の中城。至 幸かくかかしと、七上棚の長尾お平次系勝 えいる曲場かり。京陽かりいの単橋」を そうきてられたちとうんなと。自他のま きからうと。通佐か一の家れい城母とと さいないからしととうたる意はしてくと からんとうしてある。数後の国とうでいるん つきっすう かんちん きょう 3 いえ

からさくんで切っるが城州後寺でもんとい 長田かするとり道をからあるからなる子ある きりしてのまなし、野くときるる。黄金数 車るくいじこうできるあがらりつうしこ からいとはし種尾るる中のあれているかって るからとかはし、我田の家城モのでしているといいないというないというないというなる人は歌しよ む長坂は用るり道やりなりととはあれのあれかんとくとは構のないとかとというあれのあ かれいての母後年を申れることうのうろくん ぞくかはいろのはどをまるへれりいくかくせ 小人でき日小死と食田勝秋海尾のは年本り、東尾里のまりや小城では夏寺中 ねとよりこととなるてとさいといりという くてり、後ろ一味しまりあるめとうぐりとなり する就後評橋のうしてき人物とける」。 時代 とゆりとかはとるでいるまたりら見ばれのは るとでか数車との中の城とくがあり そる大剛の者かりとくたれいのかしから 小人作此此

りれの日かし死とかりで民政に信玄軍一覧 越後でくろくかかくのあろい知能とくう 中できるうろうところとろんがくくかっ ゆる場のままとうこというさんだも すてるまたのはせい種えってのようりしき と書るしていてきまるないとうち ていての国とかうべしまして大麻のよってい えて七世を礼職とめるい種恵実子やら えいいいかも時れのたりろうはちょうのよう。 上河田山村民政会門門鐵上で送馬。生上河田山村民政会政府門外 てからいあれてしてる君の独田伝ととう大きれとういろとありのなとかりのなとなったるというのをとん さかしないといていまりがあるとうであるとうないは、一点のなないといていまがられいなっていますると 美国在一方公司之人教とうととに見たなる 別三もわらし付ていまれの大幸かろうもしのは 歌城下自生子多名と教教し、以及多陽生的 とおんしてなくういるんとすし、そ上班版とも C. Kataker

するはけからと活の成むまってぞれ人で 泉都十三年 19天下年もでいず年いちょ 後別の恩思和く手後一神のよれる行うかられるととしてあるとうなったとうというないというというない 種尾きるかしくってるあ物数後とから と呼ばしる事いかくとしるかしいる。 しならとんめでして家むの者しいいつくや 生かりそれ大わとるいたろとちょう。多出も て佛神のよくととうべしかのできるの食助え このじまで着車とむくとのうのりざいいな 古しもなどまべきくもるべくといき場と 題尾きるのしるとうとうての思達され果 汁等をここかとはしそうなりやってる てき運動かりありのまったとかっていったって 後してとうい神的は挟みなり。君をこれと そうけられるころとなるから思事とうて かくしては我工物をなるようとの後一旦利かくうくられるとうないないとうとうないないとうないないと そうるままとうなとせのゆいさとあくろと いくのはあくべくしいなれませかでくり松園 けいつちろ ~ 人名巴 ありご

きんさん ろうりきとうくくりよるなみを感しかりまし いわって真い真ってかくりる事かり海底のう 教をくる我とくし、は白とめてして著物 名村紀かりるろくだちの他のうりちるは他の内 の海土の文章とちてど、歌きの英と小組治と 2)をと。相模。安房上後で経改送は又ケ色東海山と。與見知色と事明人更の事 となるうな事也しろう あ方三被けりりけてやとり二被いさりかさ あばきなさいなりの月りたいるといん。早れ一神 は入海といれは不とかくわつすると父は。国東 のかりまする、海かり、清風の海として大真な ふれる六ででではりえまった海へ漕かく何という のすとかりと名なく。大徳のでしますと二十七付 なったったとうないるところとはもとす かるますれと地獄りるとり大個となりあとの 國の連た。と、「全国東」なりは真ととくる私 すれて知外也必可しと我们也产 紫昌山の西 女ると名は縄と二動はよび三尺はじいここさす 小小也是二 の何のりしてるとこつとしありてけぞれ

りる。殿殿のあるすることの西海しりなゆりのを見りのためとれのまかりとんろうしゃという りゆうれんのころないかがあれるない かしかしかくうろくさいかろうの異け中 ふろんやりらんとよめり移観しるけるよ もられか調題してなーろれか業集」 そりてもれっきる人がの年かりとと ならすからいとうとうろかの一年の前 かどとけるようのるませいと上作南子る。流 よ激生ると他の村倒と海へたり、大個と引了 ではならくはの上かの上しから東見たとい りきなり三人医かりってうつの見れといはるか ていいのはしまれ車とははいるとれていととう とせな海底の大真みをの見とれるまるよう 知見のゆはかしゃくせてみないないの けて引から天地用脚りる風かってんち からくいみにくしなきでうい十つねつつとう ゆとうしとます」でしないかによって初更 しぬとうけんが実をありけてくって から

をくとう。民怨讨為て。民初とはらないなかり、教命の一者なる。民怨出庫同十六日の かあるかられるあるというとれたからまる たりくうじいというはりいは氏にかる 奏院也。天文六年の夏小田を南くる治事 らのぬるかから七月上旬上校不即初宣武 をする。伊豆相模よ房の南しけりよう。初朝 肉とうの肉とくいるって吸いれるようてと 真肉ったれるうく出りことというり ら連続とめてではりかくなっているい とうなるとうなるし、治情教場门山の面看 とうないとうしょうないとうないは、明真ようのしてもというないとうないとうないというというないとうないというないかられているときないというないかられているときないというないかられていると でさく。地小の者とうくもはれき目からん て不言からきての記るかしかるともゆんせむらは なしていると上記とうよなののでる。死日とかく 1 you to you

されりようの建久九年十月二日。我的人上 う見い童とうないるととうをもってる 人奏級しなる国ましたり。観かり美き 三即盛場かりとくめてりるもとなりさ めの何か。までいの国動門のることいて。他は ってるとはいるるといきいきとうくなる も意図られなる個臭怪見としそくしか かんじりまの世界はは美女は見るべく 真え風東海しいとうしていましてく えたり真なりまると考謝初難さら ちく気を他での民代さんのゆといれない 当人は大人である。前の白干様の民心のとれるといる。 を到は本」ともの朝をしまるとうなってきるいがなりのは国の浦里の人。戦奏なしきいんなる。 の個人変放此事かしられい記じてもある しとの内とからまるかととがてつつの真と どうのまれているとうとうできなかりのか をはとないなの山風の南人わり 黄気しいま れいくしてきりのないのは、女子の神代の申う 下文下巴 是一

ふか自己しるおおかないは見をとはいれて の気ととくのはいなったっとんんんいこ からきとしりのなりますいるのかりのます。まはと ろゆうかときは国東万民のしざいとと、我 ねると年が建一味の黄をかあってあのうかるこれの山い二角の前を大なれれれていたっちの くとゆうなうかとれないとろうれぬるい あつうちん切地でくやくなりかあるべきくとういけ みのようなとうのなるとなったくらき そのとう。そしてぬのと気かんがんとの風 あったっとくてきにほんのちょうかろく ゆるはっとのこととというし、次名の格 のみなりの教を阿三村山中了派しるの情古 今集了 おえかってのかけりとてやってのいろう くなりたしとうか上の自然とかりて

強しるととも何せどれとたるると対よ おしくせんどく細かくぬ中のころろがで まの群れとようかの個して ねんとのうなか 臭くの個よれは人とそれくろうととう お祖とはてるというな。横い待とうまとる るで何できましるでいるととというという と記げてとまれ道のかせるとざからいるか さきっていめてれて見とれた大個と すめるなを行う 佛いれの食がなと事でと思えばのくじらい できてるとなるとうとかったいかんとすると で成了できりからきのかりの海山河からかっ なてごうているれずりありというしめるり はなられからた今とかしる大山らと 大油でれちろの一後者とぬいろらうされれて とうなるいつまりそうかのことから真となる かると廣き組みに見ものったとときだろうと し、本草綱目とこくて、英からからうない

するないないの気也というううみらけての国る 三浦不即た果门村盛城上ろうるでようりて 軍家相る感後師し苦せてれるいないないないないないないないないないないはれる神で見れているのはなり神で真かられている。将 六月み日。三浦春村が合教りの同二年の秋と と。それっていはましたてのわあわら同ち 三月十一日帰れの南へ人臭かられらははか 市が移りの同年入月二日和田義盛人できめ きととうなるできるのなるがあるとうで きてきまなくしょうでう大ルスキーのあっていると かせるうしちつといろうのしていさりいはる なんしるのうる食をしてきといるという 教はるましまくいりとろうねんだくりそん さしさい他の目とよくようとそろ く成七七之建保元年の友は田の南人真 むろうべきにその後とやひとうに強の (10 m - 11.11

きぬくの教とうかるそうたりとりとれー からとうて不多のまったりくうろしまる治さ 神の南の真からしっていているところはほと 奥川へを所とせてとむるりてるまたり十日に

小像る代記巻七級

TO COMPANY THE TOTAL STATE OF THE PARK THE PARK

